

船舶事故調査報告書

平成29年6月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（棧橋）
発生日時	平成28年12月22日 10時45分ごろ
発生場所	三重県四日市市S J 棧橋 四日市防波堤信号所から真方位247° 1,850m付近 （概位 北緯34° 56.4′ 東経136° 38.5′）
事故の概要	ケミカルタンカーゆうきは、着棧操船中、棧橋に衝突した。
事故調査の経過	平成29年1月4日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ケミカルタンカー ゆうき、499トン
船舶番号、船舶所有者等	142235、勇喜汽船株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 船首部に擦過傷 棧橋 消防放水銃架台支柱2本に折損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、船長が2海里（M）レンジに設定したレーダー画面でS J 棧橋を約1.5Mに認め、同棧橋に接近した。</p> <p>船長は、レーダーで本船とS J 棧橋との距離が約0.25Mまで接近していることに気付き、機関を中立とした後、後進に掛けたものの、間に合わなかった。</p> <p>船長は、ふだんから目視よりもレーダーに重点を置いて船位の確認を行っており、本船とS J 棧橋との距離が約0.5Mとなったときに減速操作を開始していた。</p> <p>船長は、レーダーで見ていたS J 棧橋との距離を見間違えていたと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、船長が、レーダーによる船位の確認に重点を置き、目視による船位の確認を行っていなかったことから、レーダーで見たS J 棧橋までの距離を見誤っていることに気付かず、減速操作を開始する時機が遅れ、同棧橋に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、船長が、レーダーによる船位の確認に重点を置き、目視による船位の確認を行っていなかったため、レーダーで見たS J 棧橋までの距離を見誤っていることに気付かず、減速操作を開始する時機が遅れ、本船が同棧橋に衝突したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え

	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・着棧操船時は、レーダー及び目視の両方で船位の確認を行うこと。</li></ul>
--	---